

CONTENTS

脳こうそく超急性期治療
私たちが目指す救急医療
コンサルージュ日記

情報発信 ステーション

（財）日本医療機能評価機構認定病院
（社）日本病院会 人間ドック・
健診施設機能評価認定病院

特定医療法人 緑社会

金田病院

〒719-3193 岡山県真庭市西原63
TEL (0867)52-1191 FAX52-1917
http://www.kaneda-hp.com

脳こうそく超急性期治療

真庭・阿新圏域で唯一の

t-PA療法実施病院

今までは脳こうそくの決定的な治療法がありませんでしたが、t-PAという新薬が開発されたことにより希望が見えてきました。

t-PAは脳に詰まった血栓（血のかたまり）を溶かす働きがあり、早期に使用すれば、従来の治療法では麻痺が残るような方の場合でも回復することが期待できるようになりました。

脳こうそく超急性期治療であるt-PA療法が実施可能な病院は、厳密な施設基準を満たす必要があります。

当院は真庭・阿新圏域で唯一の実施病院であり、その責任は大きいと考えています。

迅速な受け入れ体制と

早期発見への啓発活動

t-PA療法は脳こうそくの発症後、3時間以内に行われなければならないという厳しい制約があります。その上、事前検査を慎重に行う必要があります。病院に搬送されてから治療開始までにはある程度の時間を要します。その時間の壁をクリアするために外来看護師が中心となり、脳こうそく超急性期の方が搬送されるまでの準備をスムーズに整えるようにし、院内での時間のロスを最小限にするよう改善しました。実際にその努力が実り、病院到着からt-PA療法開始までの時間の短縮が可能となりました。

脳卒中のt-PA治療ができる病院

- 岡山医療センター
- 岡山旭東病院
- 岡山市民病院
- 岡山赤十字病院
- 岡山大学病院
- 岡山労災病院
- 金田病院
- 川崎医科大学附属病院
- 倉敷中央病院
- 津山中央病院

〔アイウエオ順〕

山陽新聞 いきいき健康ネット 岡山医療ガイドより引用

ご本人やご家族が脳こうそくかもしれないということをいち早く認識していただくこと、救急隊の方もその場で脳こうそくを疑う目を持っていただくこと、そして受け入れる病院も迅速にt-PA療法の適応を判断することがいづれも必要です。当院では脳こうそくの症状を皆さまにご理解いただくために、情報発信ステーションによる広報活動や各地区での講演会を開催しています。また、現場で脳こうそくと判断できる技術を習得していただくために、消防署での講演や救急隊との勉強会も行っています。院内でも積極的に職種を超えた勉強会を開催しています。

これからも真庭・阿新圏域唯一のt-PA療法実施病院としての使命を誠実に果たしていきたいと思えます。

特定医療法人緑社会 理念

奉仕
仁愛
誠実
研鑽
調和

金田病院 理念

- 一、金田病院は、二次医療圏・日常医療圏の中で、地域の医療機関との緊密な連携のもとに、地域の中核病院として、人々にわかりやすい医療提供体制を構築します。
- 二、金田病院の医療提供体制は、「急性期医療」を基幹とし、「亜急性期医療」、「医療療養病床」を運営し、「地域医療に貢献します」。

基本方針

- 一、金田病院は、地域の人々に、良質な医療・介護を提供します。
- 二、金田病院は、地域の人々と、ゆるぎない信頼関係を築いていきます。
- 三、「個人情報保護法」を厳守するとともにプライバシーを尊重します。
- 四、根拠に基づいた公平な医療を提供します。
- 五、診療は、医師の説明と、患者さまの選択に基づいて行います。



私たちが目指す救急医療

救急総括医長

木下 公久

(脳神経外科医長)

金田病院が目指す救急医療

1. 地域の救急医療に貢献する
2. 救急搬送依頼に迅速に対応する
3. 救急室での初期診療を的確に行う
4. 院内発症の急変に適切に対処する

これらの目標を達成するため、勉強会や実技講習会を実施し、救急医療の知識や技量の向上に努めています。また、救急関連の講習会にも積極的に参加、指導者としても参加することで知識や技術を高めています。その内容は院内にフィードバックされ、病院全体の救急医療のレベルアップへとつながっています。

救急隊とのホットライン

これまで消防署や救急隊からの救急受け入れ要請は病院の代表電話にかかり、その連絡は医



師に取り次がれ、受け入れ可能かどうかを判断するというシステムでした。そのため救急隊が病院を選定するまでに時間のロスが生じる可能性がありました。それを改善するため、救急隊からの救急受け入れ要請の電話が医師に直接院内PHSでつながるように変更しました。「救急隊ホットライン」と呼ばれるこのシステムにより、一刻を争う救急搬送依頼にさらに迅速かつ確実に対応できるようになりました。

画期的なホットラインの開設により、救急要請の受諾を医師が直接看護師に伝えるため、看護師は状態把握がより正確にでき、救急室での初期診療を的確に行うための医師、レントゲン技師、臨床検査技師等との連携が一層深まりました。

救急医療界には「プラチナの10分」という言葉があります。発症から最初の10分間の処置がその方の予後を決めるという意味です。救急隊とのホットラインにより短縮された数分が、生死やその後の人生を左右する場合もあり得るのです。この数分間には大きな意味があると私たちは考えています。

院内メデイカルラリー

メデイカルラリーとは、救急の現場を想定した訓練です。医療従事者向けのさまざまな場面での想定訓練として世界各地で行われており、数百人が参加するような大規模なものもあります。当院でも院内発症の急変に適切に対処するため、院内メデイカルラリーを行っています。今回の想定訓練は、病棟看護師が中心となり行いました。緊迫した訓練を通して緊急時の対応を再確認することができました。

三次救急病院との連携

当院は中規模の二次救急病院であり、多発外傷などの重症の方は三次救急病院へお願いする必要があります。転院搬送が必要と

判断してから実際に三次救急病院へ到着するまで、最短でも30分を要します。したがって三次救急病院との連携は大変重要です。当院からの転送先には岡山医療センター、川崎医科大学、岡山大学、津山中央病院等があります。

各病院とはそれぞれ独自の連携を図っています。中でも川崎医科大学附属病院高度救命救急センターとのテレビ電話回線は、特筆すべきものひとつです。専用の電話回線を設け、ビデオカメラを使って当院から転送される方の状態、CTやレントゲン写真などを高度救命救急センターの医師とリアルタイムに検討することができます。これにより川崎医科大学に到着後、医師は搬送された方の根本的治療を迅速に開始することが可能です。搬送手段として昼間の場合は、ドクターヘリコプターによる搬送をまず検討します。

津山中央病院救命救急センターと当院は「美作地域メディカルコントロール」の主だった病院として、消防救急隊も加わりより良い救急医療連携のあり方について日頃より勉強会を行っています。

私たちは今後とも地域に根ざし、皆さまに安心と信頼をお届けできる救急医療システムの構築を目指し一層努力いたします。

コンシェルジュ日記

事務部 コンシェルジュ
細田 麻衣子

「あなたの顔を見に来たで。たまには部屋にも会いに来てえなあ。」ある日、ご入院中の方からいただいたお言葉です。私には外来フロアを中心に活動しているため、ご入院中の方と接する機会はほとんどありませんでした。このように思ってくださいている方がおられることを知り、ご入院中の方との関わりをかたりにしたいと思うようになりました。

そこで看護部長に相談すると「退院前の病室訪問というかたちが良いのでは？ご入院中の方は、私たち看護師には伝えにくいこともあると思います。細田さんがお部屋に伺い、ご入院中の感想やご要望をお聞きするのはとても良いことですね。コンシェルジュだからこそ話せるこ



ともあるでしょうし、ゆつくり話す時間は安心にもつながるでしょう。」と提案がありました。病棟看護師長からは「今までとは違う視点からのお話しを伺え

ることは、看護師にとっても貴重です。ご入院中の方への気付きや改善にもつながりますね。」とアドバイスをいただきました。

私は退院前の病室訪問をさせていただくために、その方のご様子や訪問の目的、方法について担当スタッフと連絡をとりました。初めての訪問は、翌日退院されるAさんです。Aさんは外来受診される際によく話しかけてくださっていた方です。私が緊張しながらお部屋に伺うと、Aさんがいつもの笑顔で迎えてくださいました。そしてご入院中の思いをいろいろお話しくださりました。退院される時には「たくさんお話ができてとても良かったよ。」と、ありがたいお言葉をちようだいしました。

今回のことからスタッフと連携を図ることで活動の幅が大きく広がることを学び、コンシェルジュとしての新しい役割を発見することができました。これからも皆さまのお声を生かせるよう努めてまいります。

編集後記

今回はマスコミでも注目されている「救急医療」について、当院の取り組みを紹介させて頂きました。これからも最新情報を、いち早く発信いたします。

地域医療連携室長
社会福祉士

田中聖隆

経営企画室主任

有本紀子

電算室主任

長田寛子